

競 技 注 意 事 項

本大会の競技は、2023年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会要項により行う。

1. ウォーミングアップ・練習について

サブグラウンドは他団体が専用使用する予定である。したがって、ウォーミングアップや練習は、すべて競技場北側の全天候走路を使用することとする。ただし、競技場内の練習は第1日目の7:30~8:45、第2日目の7:30~9:15は可能とする（競技場内での練習は今大会にエントリーしている選手のみとする）。
また、1日目の11:15~12:20までの時間帯は、バックストレートでの練習を認める。（ハードル等器具の使用は禁止）。ただし、円盤投、棒高跳の競技中となるので、競技役員の指示に従うこと。
1日目の13:30~14:30までの間、サブグラウンド横の全天候走路に練習用ハードルを設置するので使用してもよい。
投てき種目においては、砲丸・円盤・メディシンボール等を用いた練習はいかなる場所においても認めない。

2. 招集について

- ア. 競技者の招集場所は、競技場内の室内練習場に設ける。
イ. 招集開始時刻は競技日程（別紙）に記載の通りとする。
ウ. 招集の手順
- ① 競技者は招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。
その際、係員にアスリートビブス、スパイクまたはシューズ、トラック競技のセパレートレーン種目は腰ナンバー標識の確認を受けたのち、係員の誘導に従って入場する。
 - ② 四種競技出場者は両日とも最初の種目は招集所でウの①に従い競技者係の点呼を受ける。以降についても招集所に集合し、混成競技係（競技者係）により点呼を受ける。フィールド競技に関しても招集完了時刻に招集所に集合とする。

3. 競技について

- ア. 危険防止のため、各走者はフィニッシュ後レーンに沿って曲走路を走る。
イ. 本大会のトラック競技はすべて電気計時とする。したがって、トラック競技出場者は右腰や後方に、主催者が用意した腰ナンバーカードをつけること。フィニッシュ後は腰ナンバーカードを必ず返却すること。
ウ. トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順とする。決勝の組み合わせは、番組編成員により公正に抽選のうえ決定する。編成された組み合わせは正面玄関付近に掲示する。
エ. 決勝進出における $\pm\alpha$ は100分の1秒単位とする。同タイムが多くレーンが不足する場合は1000分の1秒まで読み取り進出者を決定する。ただし、同記録者がありレーン数が不足する場合は、本人の抽選により決定する。
オ. アスリートビブス（横22~24cm×縦16~20cm）は個人登録番号とし、太さ2cm程度の明瞭な文字で書いてユニフォームの背と胸に付けること（跳躍競技は背または胸いずれか一方でよい）。
カ. トラック競技のセパレートレーン種目については、個人登録番号の腰ナンバー標識をユニフォームの右腰に付けること。
キ. リレー競走について
- ① リレー競走については、競技規則第170条を厳守すること。
 - ② 同一チームの4名は同一のユニフォームを着用することが望ましい。
 - ③ 各走者は1カ所にかぎり粘着テープをマーカー（テープの大きさは50mm×400mm以内）として使用できる。
 - ④ 各走者はバトンの受け渡しを終えた後は、他の競技者の邪魔にならないようレーン内にとどまること。
 - ⑤ リレーオーダー用紙は、学校受付で所定の用紙を1チームにつき1部ずつ受け取り（『スパイクの跡』綴じ込みのもの可）、招集完了時刻1時間前までに競技者係に提出すること。決勝進出の場合は、改めてリレーオーダー用紙を提出する必要はないが、予選からオーダーの変更がある場合は改めて提出すること。第2日目に行われるリレー種目のオーダー用紙の提出はできるかぎり第1日目終了までに提出されたい（ただし、15:00まで）。
- キ. 「不適切なスタート動作（不適切行為）」があった場合は、グリーンカードによる注意を与える。また、同一競技者による注意が多発した場合は、審判長等により警告を与えることがある。（競技規則第162条5項（a）（b）（c））同じ競技者が同じレースの中で2度の警告があった場合は、不正スタートとみなす。不正スタートを行った競技者は1回で失格となる（ただし、四種競技においては、不正スタート2回目以降は誰でも失格の対象となるルールを適用する）。
- ク. 競技規則第162条5（c）『「位置について（on your marks）」の合図の後、ある競技者が音声その他の方法で、他の競技者の邪魔をしているとスターターが判断したときは不正スタートとみなされる』により、スターターの「on your marks」の合図で「お願いします」等のかけ声はかけないこと。

- ケ. 競技規則TR5.2の改訂に伴い、ソールの厚さが規定以上のシューズでは競技に出場できない。
- コ. 皇子山陸上競技場ではスパイクのニードルピンが使用禁止のため、付け替えなければ競技に出場できない。ただし、固定されているものは例外とする。
- サ. すべてのラウンド（予選を含む）において競技を棄権する場合は、競技者係にて棄権届を受け取り、必要事項を記入のうえ、競技者係に提出すること。
- シ. フィールド種目については、セレクションラインを設ける。
 (男子) 走幅跳：4 m50 三段跳：10m00 砲丸投：7 m00 円盤投：20m00
 (女子) 走幅跳：3 m70 砲丸投：7 m00 円盤投：15m00

4. バーの上げ方

	種 目	練 習	試 技 に お け る 上 げ 方
男子	走 高 跳	140cm/155cm	145 - 150 - 155 - 160 - 165 - 170 - 173 - 176...
	四種走高跳	120cm/140cm	125 - 130 - 135 ... 160 - 165 - 168 - 171...
	棒 高 跳	2 1 0 c m	220 - 230 - 240 - 250 - 260 - 270 - 280 - 290...
女子	走 高 跳	120cm/135cm	125 - 130 - 135 - 140 - 145 - 148 - 151 - 154...
	四種走高跳	110cm/125cm	115 - 120 - 125 - 130 - 135 - 140 - 143 - 146...

第1位が同成績の場合の順位決定は、同成績の競技者全員が成功した次の高さで行い、その後のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

5. 表彰・学校対抗および得点について

- ア. 決勝において第3位までに入賞した競技者は、決勝結果の通告後すみやかに表彰席に集合のこと。
(表彰には競技服装・運動靴で臨むこと)
- イ. 学校対抗における団体表彰は男子総合・女子総合・男女総合とも第3位まで行う。
- ウ. 学校対抗得点は各種目1位8点、2位7点、・・・、8位1点とする。

6. 救急医療について

出場競技者の競技中の疾病および傷害については、応急の処置は行うがそれ以後の責任は一切負わない。また、大会中の疾病および傷害については、必ず総務に届け出ること。

7. その他

- ア. 規制エリア内への入場できるのは競技者、補助員、競技役員、引率者とし、IDカードによる入場制限を行う。ただし、スタンドへの入場規制は行わない。
- イ. 競技場での競技者の移動はスタンド外を利用すること。特に本部前の通行およびメインスタンド下は立ち入り禁止とする。
- ウ. 競技者はトランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用しないこと（第144条により競技者への助力とみなされ失格となる場合がある）。
- エ. テントは各校指定された場所に設置すること。
- オ. 更衣室の利用については、更衣のみとする。短時間での利用を徹底すること。
- カ. 助走マークやリレーマークなどで使用したテープは、確実にはがして持ち帰ること。
- キ. 貴重品等の管理は各校で十分注意すること。
- ク. 競技開始前の競技場でのウォーミングアップは1・2レーンを周回レーン、3～8レーンを流し・ダッシュレーン（ただしメインストレートの7・8レーンはハードル専用レーン）とする。また、リレーのバトン練習はバックストレートのみとする。